

すぴりっと

岐阜高等学校 家庭クラブ 第5号

盲学校 文化祭のお手伝いボランティア体験！

参加者

1組 村井さん・三津村さん・山本君 2組 八木さん 3組岡田さん・多田さん 4組 小川君・山本君
5組 今井さん 6組 杉山さん 7組 高崎さん・大野君・服部君・横山君
8組 笠原さん・市橋さん 9組 小間さん・大坪さん・吉田さん

みなさんご苦勞様でした！

- ・案内するとき、目の見えない人と行動して発見したことがあった。手を持って誘導するとき声を出しながら一歩前を歩くこと。盲学校の中は笑顔が多いなあと思った。(9組吉田)
- ・「障がいは不便であるが不幸ではない」と感じた。(4組小川)
- ・廊下の手すりが2段あった。図書館では点字本やフェルトやボタンを使った絵本が立体的に作られたのがあった。誘導するときは前を歩いている人の肩や腕を貸して歩くと安心だといってみえた。(6組杉山)
- ・一緒にうどんを作って販売したが、どの人もてきぱきと仕事をこなしてすごいと思った。(8組 笠原)
- ・大変だったが、自分が少しでも役に立てたと思うと嬉しかった。(9組大坪)
- ・ピザ&ジュース販売で、ジュースを注ぐとき、目が見えてなくても音でどれくらい入ったかを感じると聞き、目が見えないといわれないとわからなかった。(8組市橋)
- ・バザー販売の手伝いで、エプロンをうまく着けられない人に着せてあげたり、何かを伝えるのははっきりと聞き取りやすく話すなど視覚障がいの人と接する場合、私たち自身の工夫も必要だと感じた。(7組高崎)
- ・学校内は階段以外の段差はなく、点字ブロックやエレベーター・てすりがあったり、音楽演奏や接客など目の見えない人も普通の暮らしをされていたので、驚いた。(7組大野)
- ・目の見えない人が靴を履くのを見て、自分たちが何気なくする行動でも大変だと気づいた。また、受付で拡大コピーしたプログラムを選ぶ人を見て、みんなと一緒に行動したいという気持ちでいると思った。(7組服部)
- ・これから授業で、点字の本紹介を作るので、目の不自由な方々の助けになるようにがんばりたい。(7組横山)
- ・普通の階段より低く、手すりが2段あった。自分は目が見えて、目が見えないと不便だと思う(4組山本)

